

いしがき



令和2年度 宇城市立小野部田小学校

学校便り 第1号

文責：校長 川端 保成

お世話になります！

令和2年度 宇城市立小野部田小学校

左の写真が、令和2年度の本校スタッフです。

昨年度より新たな一員として加わったのは、左下ブロックの一番左が谷川由美子生活支援員、同じくその右の野崎雪子講師、そして左上ブロックの一番左が私、校長の川端保成です。

ご覧の通り、ほとんどの先生方が残られているので、児童・保護者ともに気心した先生ばかりです。私自身も初勤務校とは言え、ほっと安心しています。

しかし、各学年単クラスでクラス替えもなく、新たな気持ちとなりにくい事もあり、担任は持ち上がりせず、次のように一新しています。

1年担任の村田眞澄先生、2年担任の前川晴美先生、3年担任の廣瀬俊彦先生、4年担任の立花幸男先生、5年担任の富田今日子先生、6年担任の鶴崎琢也先生、たんぽぽ学級担任の田中夏樹先生と野崎雪子先生、谷川由美子先生となります。また、教頭の尾崎多佳子先生、教務主任の富永繁己先生は理科専科として、養護の染森佳代子先生、事務の林田みゆき先生、用務の楠本友加里先生は図書室の先生も兼ねて、調理員の上木美喜子先生と上田恵先生、以上17名で全校児童をサポートします。今年1年、どうぞ、よろしくお願い致します。



「いしがき」への想い

今年度の学校便りは「いしがき」としました。当然、「石垣」と書くわけですが、次のような想いを込めて名付けさせてもらいました。

熊本地震を経験する中で、復興に向けた県民の大きな支えの象徴として、熊本城の飯田丸五階櫓（いいだまるごかいやぐら）を支えた「軌跡の一本石垣」は、いまだに私たちの記憶に残っています。

しかし、私が実際に熊本城に行った際、その当時何カ所も崩れた外堀の石垣の方が、鮮明に焼き付けられています。そこでまざまざと見せつけられたのは、表に見える大きな石だけでなく、今まで見た事もない小さな「ぐり石」等がお互いに支え合って、あの雄大な石垣を築いていたという事です。立派な熊本城も、一つとして同じ形のない石や違う種類の石がたくさん積み重なって支えていたのでした。学校も同じで、ひとりひとり顔や背の大きさ、性格の違う子どもたちが、個性豊かにしっかりと支え合って、ひとつの学校として成り立っています。逆に言うと、91人の内ひとり欠けても石垣は、その立派な姿を見せる事は出来ません。今まで頑張ってきた6年生も、入学したばかりの1年生も、スポーツの得意な子も苦手な子も、みんな大切な「いしがき」のひとつだと信じています。当然、このことは、先生方にも同じことが言えると考えています。

昨年同様、今後とも本校の教育活動に、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

